

## (4) 智頭急行株式会社経営状況報告書

### 一 法人の概要

- |           |   |
|-----------|---|
| 1 名 称     | 智頭急行株式会社  |
| 2 目的      | 鉄道事業法による旅客の運送業及びこれに付帯または関連する事業を営むことを目的とする。  |
| 3 設立登記年月日 | 昭和61年5月31日  |
| 4 資本金     | 450,000,000円(9,000株)  |
| 5 株主      | 鳥取県 152,500,000円(3,050株)<br>兵庫県 60,000,000円(1,200株)<br>鳥取市 50,550,000円(1,011株)<br>岡山県 36,450,000円(729株)<br>各市町村 89,300,000円(1,786株)<br>民間企業 58,500,000円(1,170株)<br>各団体 2,700,000円(54株)  |
| 6 役員      | 取締役 13人 監査役 2人<br>取締役会長 平井伸治(鳥取県知事)<br>取締役副会長 吉本知之(兵庫県副知事)<br>取締役副会長 古矢博通(岡山県副知事)<br>代表取締役社長 池上勝治<br>代表取締役常務 石川幸夫<br>取締役 竹内功(鳥取市長)<br>" 平木誠(八頭町長)<br>" 寺谷誠一郎(智頭町長)<br>" 安東美孝(美作市長)<br>" 庵途典章(佐用町長)<br>" 山下恭史(株式会社鳥取銀行常務執行役員)<br>" 澤史郎(日本交通株式会社代表取締役社長)<br>" 上杉雅彦(神姫バス株式会社代表取締役社長) |

監 査 役 石 田 耕太郎 (倉吉市長)

〃 和 田 長 平 (播州信用金庫理事長)

7 従 業 員 8 2 人

8 事 務 所 本 社 鳥取県八頭郡智頭町智頭 2 0 5 2 番地 1

運 輸 部 鳥取県八頭郡智頭町智頭 1 8 6 2 番地 2

大原事業所 岡山県美作市古町 1 5 5 0 番地 2

## 二 平成23年度事業実施状況

### 1 営業の概要及び成果

輸送の安全確保を最重要課題として全社員が一丸となって取り組み、無事故で終了した。

特急列車の利用状況は、上期は東日本大震災による企業活動の停滞や旅行の手控え等による影響が大きく、前年を大幅に下回る厳しいスタートとなったが、下期は徐々にではあるが震災からの復興や九州新幹線全線開通による「スーパーいなば」の利用客の増加など回復の兆しが見えたものの、「スーパーはくと」の伸びがなく、全体としては前期の利用客数を下回る結果となった。

#### (1) 列車利用状況 (単位：人、%)

区分	当期	前期	増減数	前期比	主な要因
スーパーはくと	598,253	613,128	-14,875	97.6	ビジネス客等の減
スーパーいなば	233,675	227,606	6,069	102.7	
特急列車 計	831,928	840,734	-8,806	99.0	
普通列車	197,193	210,156	-12,963	93.8	

#### (2) 収支状況

##### ① 主な費用 (単位：千円、%)

区分	当期	前期	増減額	前期比	主な要因
旅客運輸収入	1,283,809	1,307,839	-24,030	98.2	乗客の減
運輸雑収入	1,469,828	1,548,738	-78,910	94.9	使用料の減
営業収益 計	2,753,637	2,856,577	-102,940	96.4	

##### ② 主な費用 (単位：千円、%)

区分	当期	前期	増減額	前期比	主な要因
修繕費	756,888	687,893	68,995	110.0	車両検査両数の増
動力費	331,759	279,600	52,159	118.7	軽油単価の上昇
減価償却費	396,307	439,681	-43,374	90.1	
営業費用 計	2,472,318	2,425,013	47,305	102.0	

#### (3) ダイヤ改正の実施

平成24年春のダイヤ改正を3月17日に実施し、九州新幹線「みずほ」、「さくら」が増発となり、九州方面への旅行がさらに便利となった。

#### (4) 安全対策の実施状況

安全対策については、経営トップと現場が一体となって安全を最優先とす

る職場風土の構築など、安全を確かなものとするための取組を展開するとともに、安全推進委員会を毎月開催し、鉄道事故防止に関する事項について徹底した議論を繰り返すほか、安全に係わる内部監査も実施し、P D C Aサイクルを徹底するなど引き続き安全管理体制のさらなる充実・強化を図った。

#### (5) 企画きっぷの発売状況

昨年に引き続き、「J R 西日本元旦乗り放題切符」を発売したほか、従来からの季節商品や「東京往復割引きっぷ」、「京阪神往復割引きっぷ」、「広島往復割引きっぷ」、「岡山往復割引きっぷ」を積極的に販売するとともに、京阪神、岡山、広島方面からの誘客を図るための「かにカニ日帰りエクスプレス」をご利用のお客様に、引き続き「ズワイガニ」等をプレゼントする企画を実施し、利用者の増加を図った。

普通列車については、「一日乗り放題きっぷ」を発売し、普通列車の利用者拡大に努めた。

#### (6) 利用促進に向けた広告宣伝等の実施状況

特急列車の利用促進に向けて、カニなど「山陰の冬の魅力」について、京阪神地区を中心にテレビCM等の宣伝を行うとともに、姫路駅でのイベントを実施し、多くのお客様に「かに」と「スーパーはくと」の魅力をPRした。

普通列車においては、前期に引き続き利用促進や地域の活性化に資するよう沿線自治体主催のイベントに積極的に参加するとともに、会社独自のイベント「ファミリーピクニック」、「ちずきゅうこうスタンプラリー」、「スーパーウォーキング（平福～宮本武蔵間）」などを開催した。

また、毎年恒例の「風鈴列車」、「七夕列車」、「クリスマス列車」のほか、新企画として「杉玉列車」を運行した。

そのほか、前期に引き続き観光企画・広報宣伝担当を設け、ホームページを中心とした智頭線沿線の観光情報の発信を強化した。

## 2 設備投資及び資金調達状況

主な設備投資とその金額は次のとおりであり、全て自己資金で対応した。

設備投資の内容	金額
運行管理システム改修	115,751千円
車両用エンジン（特急車両用14台）	66,080千円

**智頭急行株式会社**  
**損益計算書**

(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)

科 目	当年度	前年度	差 異	備 考
	円	円	円	
I 鉄道事業営業利益				
1 営業収益	2,753,637,531	2,856,577,382	△ 102,939,851	
(1) 旅客運輸収入	1,283,808,919	1,307,839,593	△ 24,030,674	
(2) 運輸雑収入	1,469,828,612	1,548,737,789	△ 78,909,177	
2 営業費用	2,472,319,173	2,425,012,534	47,306,639	
(1) 運送費	1,852,967,530	1,748,702,870	104,264,660	
(2) 案内宣伝費	35,848,799	35,968,905	△ 120,106	
(3) 厚生福利施設費	1,468,440	1,528,454	△ 60,014	
(4) 一般管理費	109,897,115	115,916,513	△ 6,019,398	
(5) 諸税	75,830,154	83,214,608	△ 7,384,454	
(6) 減価償却費	396,307,135	439,681,184	△ 43,374,049	
営業損益	281,318,358	431,564,848	△ 150,246,490	
II 営業外収益	32,135,882	24,585,455	7,550,427	
1 受取利息	7,683,383	11,448,130	△ 3,764,747	
2 雑収入	24,452,499	13,137,325	11,315,174	
III 営業外費用	28,345,580	32,830,347	△ 4,484,767	
1 支払利息	11,077,029	14,690,872	△ 3,613,843	
2 繰延資産償却	2,561,128	2,570,375	△ 9,247	
3 雑支出	14,707,423	15,569,100	△ 861,677	
經常損益	285,108,660	423,319,956	△ 138,211,296	
IV 特別利益	19,999	0	19,999	
V 特別損失	28,475,766	6,307,979	22,167,787	
税引前当期利益	256,652,893	417,011,977	△ 160,359,084	
法人税等	98,463,100	163,187,300	△ 64,724,200	
当期純利益	158,189,793	253,824,677	△ 95,634,884	

**智頭急行株式会社**  
**貸借対照表**

(平成24年3月31日現在)

科 目	当年度	前年度	差 異
	円	円	円
I 資産の部			
1 流動資産			
現金・預金	1,743,892,837	2,095,755,484	△ 351,862,647
未収運賃	403,035,596	398,837,000	4,198,596
未収収益	14,413,378	16,375,922	△ 1,962,544
有価証券	501,067,025	0	501,067,025
貯蔵品	288,791,859	262,876,017	25,915,842
前払費用	11,571,867	7,127,142	4,444,725
流動資産合計	2,962,772,562	2,780,971,565	181,800,997
2 固定資産			
(1) 鉄道事業固定資産	2,302,935,316	2,517,562,076	△ 214,626,760
有形固定資産	2,287,297,176	2,496,039,769	△ 208,742,593
無形固定資産	15,638,140	21,522,307	△ 5,884,167
(2) 投資その他の資産	88,921,483	99,773,925	△ 10,852,442
差入保証金	2,084,000	2,084,000	0
長期未収金	86,735,123	97,592,685	△ 10,857,562
その他	102,360	97,240	5,120
固定資産合計	2,391,856,799	2,617,336,001	△ 225,479,202
3 繰延資産			
開発費	10,383,213	12,944,341	△ 2,561,128
繰延資産合計	10,383,213	12,944,341	△ 2,561,128
資産合計	5,365,012,574	5,411,251,907	△ 46,239,333

科 目	当年度	前年度	差 異
	円	円	円
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	321,007,106	170,632,914	150,374,192
未払費用	8,925,119	4,309,927	4,615,192
未払法人税等	17,834,100	79,830,600	△ 61,996,500
未払消費税等	4,070,162	22,617,433	△ 18,547,271
前受運賃	1,035,310	1,032,434	2,876
預り金	5,526,481	2,234,161	3,292,320
前受収益	17,555,720	17,566,945	△ 11,225
流動負債合計	375,953,998	298,224,414	77,729,584
2 固定負債			
長期借入金	215,000,000	425,000,000	△ 210,000,000
長期未払金	576,436,408	648,595,118	△ 72,158,710
固定負債合計	791,436,408	1,073,595,118	△ 282,158,710
負債合計	1,167,390,406	1,371,819,532	△ 204,429,126
III 純資産の部			
1 株主資本			
(1) 資本金	450,000,000	450,000,000	0
(2) 利益剰余金	3,747,622,168	3,589,432,375	158,189,793
利益準備金	2,700,000	2,700,000	0
その他の利益剰余金	3,744,922,168	3,586,732,375	158,189,793
別途積立金	2,170,000,000	2,050,000,000	120,000,000
固定資産圧縮積立金	1,410,000,000	1,280,000,000	130,000,000
繰越利益剰余金	164,922,168	256,732,375	△ 91,810,207
純資産合計	4,197,622,168	4,039,432,375	158,189,793
負債及び純資産合計	5,365,012,574	5,411,251,907	△ 46,239,333

### 三 平成24年度事業計画

安全を最優先とする意識の定着を図るため、経営理念の第一は安全の確保であることを再認識し、経営トップ及び全管理職社員自らが現場に出向き、現場との一体感を醸成するなど、より一層強固な安全管理体制を築く。

また、安全の確保は人材育成であることを踏まえ、引き続き世代交代に備えての個々人の知識、技術、技能の向上及び継承の推進に努める。

今年度は、10月から3カ月間開催される「山陰デスティネーションキャンペーン」を筆頭に、鳥取県の「まんが王国とっとり建国記念事業」、鳥取砂丘「砂の美術館」オープン、兵庫県の「K O B E d e 清盛2012」の開催など、新たな取組をチャンスととらえ、J R等と一体となった旅行商品の開発や情報発信を積極的に行うなど、ひとりでも多くの観光客を誘致する取組を行うほか、沿線自治体と連携した普通列車の利用促進のための取組を、より一層進めていく。

また、原油価格等の上昇や車両の検査両数増などに伴う費用の増加に対応するため、引き続き事業の効率化や経費節減等に努める。

そして、J Rや関係行政機関と十分な連携を図りながら、第3セクター鉄道会社として「山陰と京阪神・山陽地区を結ぶ地方幹線鉄道」及び「沿線地域の振興に貢献する鉄道」という使命を果たす。

#### 〔重点実施項目〕

- (1) 社員の安全最優先の意識と法令遵守の徹底及び技術レベルの向上による事故等の未然防止、ヒヤリハット事象の報告と分析及び対策の実施
- (2) 災害や事故等の異常事態に迅速、適確に対応できる危機管理体制の強化
- (3) 鉄道輸送を取り巻く厳しい経営環境の変化に対応するため、旅の快適性や速達化の向上などを図るダイヤの整備
- (4) 列車の安全運行確保のための適時、適切な設備投資、更新及び修繕の実施並びに各種工事の効率化の徹底
- (5) 普通列車の利用促進や地域活性化に資するため、沿線自治体及び利用促進協議会等とのより密接な連携による取り組みの実施
- (6) 「山陰デスティネーションキャンペーン」を最大限活用するとともに、新たな観光の素材である「まんが王国とっとり」や「砂の美術館」、「K O B E d e 清盛2012」等の積極的な情報発信と、既存の「鳥取砂丘」、「山陰海岸ジオパーク」、「倉吉白壁土蔵群」など沿線観光地の観光資源の魅力を最大限発揮する取組の強化